

2月22日(月)

主の揺るぎない愛

聖書朗読 哀歌 3:19～26

私は主の激しい怒りのむちを受けて悩みに会った者。主は私を連れ去って、光のないやみを歩ませ、御手をもって一日中、くり返して私を攻めた。 哀歌 3:1～3

ある日曜日の礼拝のあと、一人の少年がいきなり母親こう言いました。「お母さん、ボク、大きくなったら伝道者になるって決めたよ。」「いいわよ。でも、どうして伝道者になることにしたの?」と母親。少年は答えました。「どっちみち毎週日曜日に教会に行かなくちゃいけないなら、ただ座って話を聞いているよりも、壇上に立って大声で叫んでいた方が楽しいそうなもの」と。

エレミヤが哀歌第3章の冒頭を書いたとき、エレミヤは自分が置かれた状況について、立ちあがって叫んでいるように聞こえます。エレミヤが置かれた状況はとても恐ろしく、彼の肉と骨を砕きました(4節)。囲いに入れられて出られず、青銅の足かせをしているような状況でした(7節)。エレミヤは神様を待ち伏せしている熊や、隠れている獅子にたとえるほどでした(10節)。自分が物笑いとなり、苦味でいっぱいのように感じました。

しかし、読み進むうちに、彼は自分自身のことを叫び出します。そして、最後には、ひとり黙って座って、耳を傾けます。何に? 彼は、神様が自分の人生に希望を、愛を、恵みをもたらしてくださったことを覚えます。神様は、私たちの魂に朝の新鮮さをもたらしてくださいます。神様は慈しみ深いお方です。神様を静かに待ちましょう。

讃美歌 290

祈り 慈しみ深いお父様。あなたの試練を受けているときでも、あなたが慈しみ深いことを覚えるよう、私たちを助けてください。あなたの御恵み、愛、希望ともに、朝毎に私たちを新しくしてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ロン・グズマン
テキサス州 ラボック

今日の力

2016年2月22日～2月28日

翻訳 村越克子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

2月23日(火)

断 固 た る 信 仰

聖書朗読 ダニエル書 3：8～16

さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。

ヤコブ 1：2

信仰者であることが、いつもたやすいというわけではありません。でも、そうです。信仰生活は祝福をもたらし、そうです。喜びを生み出し、そして、そうですよね。永遠なのです。そして、信仰は「はい、そうです」という言葉をこだまさせます。

とはいうものの、実際のところ、信仰はトラブルを起こすことがあります。信仰者はときに試練にあいます。そういう場合、自然と私たちは、直接的で具体的で、しかも超自然的な助けを求めるものです。でも、そのような救出はないこともあります。

シャデラク、メシャク、アベデ・メゴは、勘違いしているというわけではありません。彼らは、ネブカデネザル王が立てた金の像にひれ伏して拝むことを拒否すれば、どういう結果になるかを十分に理解していました。若い彼らは、神様が自分たちを救い出しに来られないかもしれないことも知っていました。実際、以前、バビロニアの敵がイスラエルに押し寄せたとき、神様は彼らを救い出されませんでした。そして今、彼らの命は非難の最前線にあり、信仰のほか、なんの保証也没有。自分たちを救うことがおできになる神様が、実際に救ってくださるかどうかは、わからないままでした。それにもかかわらず、3人は揺らぐことはありませんでした。唯一の真の神様を信頼しました。

神様は、このとき、3人を助け出されました。3人の信仰は薄いものではなく、神様の存在は希薄なものではありませんでした。信仰は、やはり「はい、そうです」という言葉をこだませたのです。

讃美歌 280

祈 り ああ、救いの神様。わが巖。わが力。唯一、あなたの御前にだけひれ伏します。今日、なにかトラブルがあっても、私たちに平安を与えてください。たとえ平安が与えられなくても、励ましを与えてください。
天にある者も、地上にある者も、地の下にある者も、すべての者がひざまずいて拝むイエス様の御名においてお祈りいたします。アーメン。

カート・ニッカム
テキサス州 アビリン

2月24日(水)

災 害 へ の 備 え 方

聖書朗読 ダニエル書 6：6～24

ただ一つ。キリストの福音にふさわしく生活しなさい。 ペリピ 1：27

ほとんどの大きな都市は、非常時に備えた計画を持っています。計画担当者は、けが人の治療優先順位の選別の訓練をはじめ、救急医療、避難計画、暴動鎮圧、通信手段、非常食、避難所などについての訓練を受けます。特に、シミュレーションつまり練習がカギとなります。担当者全員が、本当の大惨事が起こったかのような事態で、実践訓練をしているので、誰も不意を突かれてはいけません。ダニエルは霊的な非常事態計画を持っていました。『彼は、いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた』のです。ダニエルを陥れようとする者がやってきたときも、彼はいつも通り神様に祈りを捧げました。ダニエルが神様に忠実であることはよく知られていたので、ダリヨス王は『あなたがいつも仕えている神が、あなたをお救いになるように』と言いました。これは、自分の信仰を試すことでもあります。自分は、主に対する日々の信仰による、突然の試練や惨事への備えができているかと考えます。主への信頼は切っても切れない交わりを意味し、悪魔でも動かすことのできないものであると、心から信じているのでしょうか？ その答えを出す前に、次の聖書の箇所を読みましょう。

私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

——ローマ 8：38～39

あなたは、非常時に備える計画をちゃんと持っていますか？

讃美歌 267

祈 り 御在天のお父様。自分にふりかかる誘惑や脅威に対してより良い備えができる方法を示してください。

聖霊の御力とイエス様の御名において。アーメン。

ボブ・マイズ
テキサス州 ラボック

2月25日(木)

死の死

聖書朗読 ホセア書 13:12~16

「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」
Iコリント 15:55

ホセア書ほど死について書かれている聖書の箇所はありません。神様は、いのちから死への移動を、『朝もやのように、朝早く消え去る露のように、打ち場から吹き散らされるもみがらのように、また、窓から出ていく煙のようになる』と比喻されています。また、死の猛猛さを記述するために、肉食のライオンや干ばつを生み出す災害を用いられます。そして、神様は、死があたかも人であるかのように、『おまえが病いをもたらしたことを知っている。おまえが心臓発作を起こして、人の命を終わらせたことを知っている』と実際には言われているかのように、死に話しかけられます。神様は、死が、ご自身の民に試練を与えられることをお許しになられます。

800年後、パウロはホセア書から引用します。私たちが、ホセア書13章に「死の章」というラベルを貼るなら、コリント第一15章は「死の死の章」です。死は死にました。イエス様が十字架において、死に勝利されたのです。ホセア書13章で死んだ人たち全員が立ち上がり、死の死を見ます。

十字架ゆえに、あらゆる時代の死者がよみがえります。ライオンに食べ尽くされた人も、干ばつで打ち倒された人も、再び生きるのです。イエス様ゆえに、いのちが死との最後の戦いに勝利し、死は、もはやとげもガンも病いも持っていません。

ホセア書13章とコリント第一15章は、同じ教えを共有しています。それは、神様は死を超えた御力をお持ちであり、十字架において、神様は死に、死を課せられたということです。そして、神様が死に勝利されたからこそ、私たちは明日に向かうことができますのです。

讃美歌 144

祈り 親愛なる主よ。死への勝利を私たちに与えてくださるために、イエス様の復活を通して、あなたがしてくださったことに感謝します。
イエス様においてお祈りします。アーメン。

ハロルド・シャンク
ウエストヴァージニア州 ビエナ

2月26日(金)

偶像礼拝に気持ちがそらされるとき

聖書朗読 ホセア書 14:1~7

アッシリヤは私たちを救えません。私たちはもう、馬にも乗らず、自分たちの手で造った物に『私たちの神』とは言いません。みなしごが愛されるのは、あなたによってだけです。
ホセア 14:3

束の間の重要性しかないものを、永遠の価値があるかのように扱うとき、偶像礼拝が起こります。私たちが偶像にしてしまうものは、ときには本質的にはそれほど悪くはないものの場合もあります。たとえば、いい仕事をする、幸せな家族をもつこと、宗教に関わる人になることなどは、素晴らしいことです。しかし、雇用主を喜ばせたいと願うあまり、成功という祭壇の上に自分の家族を差し出したり、子どもたちの人気取りのために御国を一番に考えることを犠牲にしたり、あるいは、信仰深い人に見られることをあまりに強く望みすぎて、私たちがお仕えする神様を本当に知ることになるプライベートな時間を軽視したりすることは、あまりよくありません。

キリストの御霊は、私たちの生活に平安と喜びをもたらしますが、偶像礼拝の霊は、緊張と不安を生み出します。ホセアが指摘しているように、自己宣伝の偶像に仕えることを止めれば、止めるほど、私たちは、弱い人や困っている人に手を差し伸べることができます。多くの人たちが、主にあるあわれみに気づき、神様が私たちを通して働きかけになられる時間と場所を提供することができますように。

讃美歌 66

祈り 全能なる神様。あなたが、私たちの人生の唯一の主、救いと安定の唯一の源であることをよく知り、そのように行なうことができますように。偶像を捨てて、あなたを求める手があなたに届くように、また、あなたの愛とともに他の人に手を差し伸べることができるように、自分の手を空けておくことができますように。

イエス様の御名において。アーメン。

マーク・S・アダムス
テキサス州 コーパスクリスティ

2月27日(土)

住 む の に 一 番 い い 所

聖書朗読 ヨエル書 3：17～21

主は、王だ。地は、こおどろし・・・天は主の義を告げ、すべての国々の民は主の栄光を見る。
詩篇 97：1、6

アメリカの世論調査会社が、住むのに最も健康的な場所として、ネブラスカ州リンカーン、コロラド州ボルダー、バーリントン、バーモントをあげたことがあります。このような幸福度が高いレベルの場所でさえ、神様がお示しくださる所とは比較になりません。バビロン捕囚から戻ったとき、ユダとエルサレムの人々は、ぶどう酒がしたり、乳と水が流れる新しいエルサレムを見ることになります。水は、土地を灌漑するために、新築された宮の泉からわきいできます。ぶどうの収穫はとても豊作で、山々にぶどう酒がしたたっているかのようです。そして、乳も同じように豊かです。このようなことが起きるとき、すべての人々は、神が神であることを覚えます。

非常に現実的な方法で、私たちは新しいシオンを待っています。ヨハネの黙示録21：10～11で、ヨハネは、神様が、ヨハネを大きな高い山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のみもとを出て、天から下って来るのを見せたと書いています。私たちは、今日、神様を礼拝するために兄弟姉妹として集まり、その町が訪れることの前兆を喜びます。イエス様は、ご自身が神であることを明らかにされています。私たちは、今、天国にある私たち自身のエルサレムを待ち望んでいるのです。

讃美歌 488

祈 り 主よ。より良い場所を待ち望んでいます。あなたとともにいられる場所を、あなたが私たちに与えてくださいますことを信じています。私たちにできることは、それを思い描くことだけです。
イエス様の御名において。アーメン。

マイケル・モス
ウエストヴァージニア州 ビエナ

2月28日(日)

2回のチャンスを与えてくださる神

聖書朗読 ヨナ書 3章

神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。
Ⅱコリント 7：10

ある小学校の教室のドアに次のような言葉が貼られていました。「間違いは怖いことではない。もし、あなたがそこから何かを学ぶなら」。

ヨナの間違いは、神様から逃げたことでした。その結果は恐ろしいことになりましたが、神様はヨナをあきらめませんでした。ヨナ書第3章は『再びヨナに次のような主のことばがあった。』という文章で始まっています。神様は、ヨナに2度目のチャンスを与えられたのです。ヨナは過ちから学びました。

ヨナに2回のチャンスを与えられたように、神様は、ニネベの町にも同じようなことをされました。神様は、ニネベの町がモンスターのように大きな悪となってしまったので、この邪悪な町をあきらめ、滅ぼそうとされました。彼らの悪が神様の前に上って来たからです。ニネベの人々はヨナの警告を聞くと、神様を信じて悔い改めました。『神は、彼らが悪の道から立ち返るために努力していることをご覧になった。それで、神は彼らに下すと言っておられたわざわいを思い直して、そうされなかった。』(ヨナ3：10)

私たちはみんな、過ちを犯します。そこから私たちが何かを学び、神様の赦しを受け、自分を変えることができるなら、過ちは素晴らしい教師となり得ます。

讃美歌 524

祈 り お父様。2回のチャンスを与えてくださる神様でいてくださり、ありがとうございます。あなたの赦しとあわれみを感謝します。自分の過ちから学ぶことができますように。
イエス様の御名において。アーメン。

ローズマリー・マックナイト
テネシー州 ヘンダーソン